

重症心身障害児（者）医療 すべての診療科が連携 総合力でケア

日本全体の4割

国立病院機構（NHO）の使命の一つは、民間の医療機関では提供しにくい医療も担うことです。その一例として重症心身障害児（者）に対する医療を挙げることができます。重症心身障害という知的障害（精神発達遅滞）と身体の障害が恒常的に併存する病態を有する患者さんの数は、全国で約4万3000人と推計されています。こうした患者さんを受け入れているNHO病院は、全国で73病院に上ります。日本全体の受け入れ可能施設のうち、実に4割近くをNHOが占めています。病床数（ベッド数）でもNHOは7913床とやはり日本全体のほぼ4割を占めます。



患者さんをケアする四国こどもとおとなの医療センタースタッフ＝香川県善通寺市

総合的なサポート

重症心身障害児（者）に対する医療の提供に際しては、総合的なサポートが求められます。ほとんど寝たきりで話すことも困難なので、体の向きを変えたい、おなかが減ったなどの意思表示が明確にできないためです。重症心身障害児（者）を多く受け入れている四国こどもとおとなの医療センター（香川県善通寺市）の中川義信院長は「重症心身障害児（者）は意思表示が難しいだけでなく、気管切開をして人工呼吸器が欠かせない人も多く、高齢になるとがんや脳卒中などを発症することも珍しくありません」と説明します。

そこで重症心身障害児（者）を受け入れている病院では、総合的な体制を敷いて治療にあたります。同医療センターでも「重症心身障害児（者）病棟ではあらゆる診療科の医師が加わって患者さんを診ます。つまり病院全

体で対応するようにしています」(中川院長)と話します。

同医療センターの病床数 689 床のうち重症心身障害児(者)の病床はほぼ3分の1の215床。病床数では重症心身障害児(者)が大きなウエートを占めていますが、外来の診療科も、充実している小児科や婦人科分野を中心に48を数えます。脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科などの診療科もあり、こうした体制が整っているからこそ重症心身障害児(者)を手厚くケアできるわけです。

豊かな空間創出

これに加えてメンタル面の配慮にも力を入れています。重症心身障害児(者)にとって治療・療養の場である病院は、生活の場でもあるからです。同医療センターは、2013年に新築し、院内は広くてゆったりしているうえ、パステルカラーの壁など全体が明るい雰囲気になっています。重症心身障害児

(者)病棟は症状に合わせて全部で4つあり、それぞれに「ひだまりの丘」「めばえの丘」など心のこもった名前がつけられています。治療・療養が長期に及ぶだけに、できるだけ快適に過ごせるようにとの配慮です。田所美代子看護師長は「気持ちがいいといった患者さんの気持ちを、表情やしぐさから読み取れることがあります。このときが一番うれしいですし、やりがいを感じます」と話します。

また、同医療センター独自の試みとして、「ホスピタルアート」活動があります。アートを通じ、より豊かな医療空間を創出しようというもので、院内には患者さんの回復と幸せを願った多数のアート作品が飾られています。



ホスピタルアートの一つとして並べられた写真=香川県善通寺市

こうした思いは、重症心身障害児(者)を受け入れているNHOの病院に共通し、地域の実情などに応じた多彩な取り組みがみられます。さらに、NHOが実施する研修やセミナーの場などでもNHOの内外に成果が発表され、重症心身障害児(者)に対する医療の分野でも質の高い医療の追求が続けられています。